

東雅

二十

和書門	特別	一八五三三	七番	二一冊
類	類	號	函	架
			九	
			十	

內閣文庫		
番號	和	18533
冊數	21 (21)	
函號	特 7	3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale

G Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



厚河州ヤツシムシ... 蠅ハ千馬...

蚊カ倭多州... 洋...

事と... アブ...

蜂ハ千馬... 蜂...

蜂ハ千馬... 蜂...

大蜂... 蜂...

りの木と葉のふかき草の地を以て
〜〜〜〜〜の地を以て類するなり

地膽ニハツ、傷るゆゑにまると同く地膽一名羌菊ニハツ、也

と信ずるにニムシもまると同く斑猫もまると也ニハツ、はニハは成

地まると同くは斑也其毒あるは畏れしめ也ニムシは成

地まると同くもまると也斑猫は或は其一名也まると也

知珠ノモ義を詳見る由風土記の初天保高木種ニよき奉に信

まると同くまると也斑猫は或は其一名也まると也

エ知珠まるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

ツチグモとひらきも斑猫は或は其一名也まると也

まるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

ツチグモとひらきも斑猫は或は其一名也まると也

いぢの毒もまるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

後稀也まるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

うはまるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

は回しはまるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

まるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

後名はまるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

アシカグモハ知珠也脚若也蟻虎ハトリハ知珠也

高根者也まるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

まるともまると也斑猫は或は其一名也まると也

一様終の...
其の...
ハタラキメ

蜻蛉 コホロキ

蟋蟀 キリクス 倭名...

相違で別名...

沙丁魚名死...

名は蟋蟀...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

ハタラキメ...

古ハナリメシロシヤ今ハキリクスロシハナリメシロシヤ今ハコホロシ

シロシヤ也元シロシヤハシ羅羅領名シ羅羅領名者謂シシロシヤ也

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

神似神而小ハシ羅羅者老澤ハシ羅羅者角朔ハシ羅羅者名シ羅羅也

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

蝗 ヲホ子ムシ 倭名ハシロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

葉日蝨 食節日蝨 食根日蝨 蝗 倭名也

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

シロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

蝨斯 イチツキコニコ

蚱蜢 イチツキコニコ

蟻 蚱蜢ハシロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

春 春ハシロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

二 貌似蟻 蟻ハシロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

長 白色ハシロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

ハシロシヤハシ羅羅也其種ハシロシヤハシ羅羅也其義ハシ羅羅

百ふイナゴのひのめとふヤウラムシのひのめ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也

其名乃乃昆義也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也
イナゴのひは名維の支那鑲貉はの體而小者壯又呼作蝨はのひ也

鐘銀 イボムシリ偽名物也

即と信ヤキリおわ也イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以
イボムシリは名維の琉球一不齧腕以

鐘銀 トカケ偽名物也

トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也
トカケ偽名物也

本まにひと長きつゆの海山を望むすのゝる龍の如
 此形物也といふトカゲの如也草澤の如く生ずる如く経路の如
 とすな井モリといふ也居望るの如くも龍形の如く又もといふ
 マモリといふ也 龍の如くトカゲといふはものものしくも井モリ
 マモリといふは井と字ありて其龍の如く生ずるもの如く
 マモリといふは龍の如く生ずるもの如く
 といふも此の字は義あり

角牛カヌツブリ偽名州の如きなりて角牛はカヌツブリ 親似龍綸
 背負龍といふなり 角之祥 カヌツブリは片角と云ふなり
 角の角或は片角を龍といふなり
 或は片角を龍といふなり
 角牛の如くも角也なりて龍の如くも角也なりて龍の如くも角也なり
 といふ也
 角之祥

尺護 ラキムシ 偽名州に設文なりて尺護ラキムシ 居伸也なり

義不詳 ラキムシは龍也其長くして伸るなり

叩頭 龍又カツキムシ 偽名州 傳感叩頭 龍の如くなりて高き細微者
 龍の如くなりて又カツキムシ 偽名州 叩頭 龍の如くなり
 といふなり 龍の如くなりて高き細微者

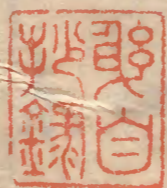
龍の如くなりて又カツキムシ 偽名州 叩頭 龍の如くなり
 といふなり 龍の如くなりて高き細微者
 龍の如くなりて又カツキムシ 偽名州 叩頭 龍の如くなり
 といふなり 龍の如くなりて高き細微者
 龍の如くなりて又カツキムシ 偽名州 叩頭 龍の如くなり
 といふなり 龍の如くなりて高き細微者

呼也ムニセミル其大なりと云カムニミルハ其大なり也
 吾竹不洋 西人の語ふハニセミルハ其大なり也
 鳴り日と多しと云ふ也

傳る所云々 鳴り日と多しと云ふ也

同上表多

乙亥二月廿日 脱稿年



東雅跋

古今之言既異而爾雅之典成矣夷夏之詞各殊而
 方言之作出矣蓋非言則無以足志非文則無以足
 言訓詁之學於是乎不得不講也於皇

本朝語言之妙談何容易夫出于未有文字之先而傳
 于數千百載之後言言相承日用而不知且在古之
 時其風朴略其人淳素故其為言也簡易質直矣歷
 數既舊風俗移易而語言亦因以變簡者日煩質者
 日文然後古代之語弗可復知降迨後世學者多賤

近貴遠乃於邦典國語廢而不講間亦雖有比義屬
辭者而揣摩牽強無足取焉惟我
先生好古敏求孜孜不倦強學以待問積中而發外
若其
國家舊典禮經文章制度及四方之志九服之言靡不
淹貫竊以

今代遭

盛明鄰邦修睦蕃國嚮化海外殊域之人至於斯也不
絕矣

先生每奉

教旨咨詢方俗因茲所以接遇者亦多而其離詞絕語
不勞鞫譯皆能辨其言而達其志若河之決下流冰
之於夏日也古云坐照四表物來能名者
先生有焉於是慨然又病國語雅訓不明其意以爲
古人自有古言今人自有今言雖人殊言異所以當
名辨物其致一也唯能得古人之心而後可以盡古
言之情論思之暇積力有年錯綜通變極深而研幾
纂成一家之書命曰東雅顧天下之言當不止於此

亦惟撮其要耳觸事廣之古今雅俗之語曲通萬殊
之理備矣庖丁解牛未嘗經其肯綮而刃有餘地
先生之於訓詁亦然神遇妙解諒有不易測者嗚呼
及其至也可以辨章風謠而幽贊於神明者其唯語
言之妙乎吾輩果有得乎此書則豈特伯喈之論衡
而已耶成私喜斯文之有寄謹題數語於卷末

享保四年夏四月十五日門人新川平元成拜書

